



2026年3月期 第2四半期

決算説明会資料

2025年11月11日

 **大成建設**
For a Lively World

表紙写真：大成建設グループ 次世代技術研究所
管理研究棟（埼玉県幸手市）

© 大成建設株式会社 / Taisei Corporation. All rights reserved.

1. サマリー

2026年3月期 第2四半期決算

- 各事業セグメントで増益。中間純利益は636億円
- 単体売上総利益率は土木21.9%・建築10.7%と大幅改善

2026年3月期 通期予想

- M&A影響、土木事業・建築事業の利益率の好転、政策保有株式の縮減状況を反映し各項目を上方修正
- 当期純利益は過去最高益の見通し

株主還元

- 通期予想の修正に伴い、年間配当を250円に増配
(中間配当は75円→125円に増配)

政策保有株式縮減

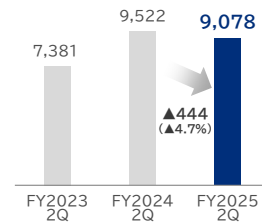
- 2025年4月-9月で209億円を売却(連結純資産比率32.8%)

M&A

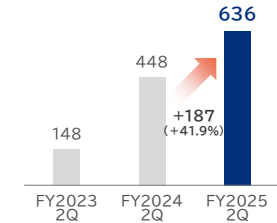
- 2025年9月に東洋建設へのTOBが完了(保有割合61.81%)
- 100%子会社化に向けて手続き中



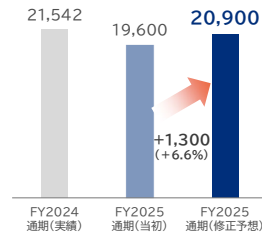
連結売上高(実績) (億円)



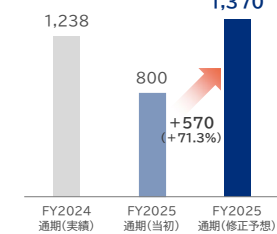
連結当期純利益(実績) (億円)



連結売上高(予想) (億円)



連結当期純利益(予想) (億円)



- 本日の決算説明のサマリーは記載の通りです。
- 順番にご説明してまいります。

2026年3月期 第2四半期実績 通期予想

- 2.主要数値の実績と予想
- 3-1.受注高
- 3-2.売上高
- 3-3.売上総利益
- 3-4.単体・完成工事利益率
- 3-5.販売費および一般管理費
- 3-6.営業利益
- 3-7.経常利益
- 3-8.中間純利益
- 3-9.当期純利益
- 3-10.グループ会社業績
- 3-11.開発事業の概況
- 3-12.バランスシート・キャッシュフローほか

© 大成建設株式会社 / Taisei Corporation. All rights reserved.

- 基本的に連結の数値を用いて説明します。

2. 主要数値の実績と予想

- 第2四半期実績は、土木事業・建築事業の売上総利益率が大幅改善し、段階利益はいずれも過去最高益
- 通期予想は、M&A影響・建設事業の利益率の好転・政策保有株式の縮減の進捗状況を反映し、すべての項目を上方修正
当期純利益は過去最高益となる見通し

(単位:億円)	FY2024 2Q 実績	FY2025 2Q 実績	対前期	2Q進捗率 (対通期予想)	FY2025 通期 予想	対前期	対当初予想
受注高	9,291	11,733	+2,441	53.6%	21,900	▲2,475	+1,300
売上高	9,522	9,078	▲444	43.4%	20,900	▲642	+1,300
売上総利益	901 (9.5%)	1,390 (15.3%)	+489 (+5.8pt)	47.3%	2,940 (14.1%)	+628 (+3.4pt)	+670
営業利益	405 (4.3%)	812 (9.0%)	+407 (+4.7pt)	54.9%	1,480 (7.1%)	+278 (+1.5pt)	+470
経常利益	497 (5.2%)	839 (9.2%)	+341 (+4.0pt)	55.2%	1,520 (7.3%)	+174 (+1.1pt)	+470
親会社株主に帰属 する中間純利益	448 (4.7%)	636 (7.0%)	+187 (+2.3pt)	46.5%	1,370 (6.6%)	+131 (+0.9pt)	+570
1株当たり 中間純利益(円)	243.99	378.30	134.31	45.8%	826.63	+143.85	+339.02
ROE	—	—	—	—	15.8%	+2.0pt	+6.3pt

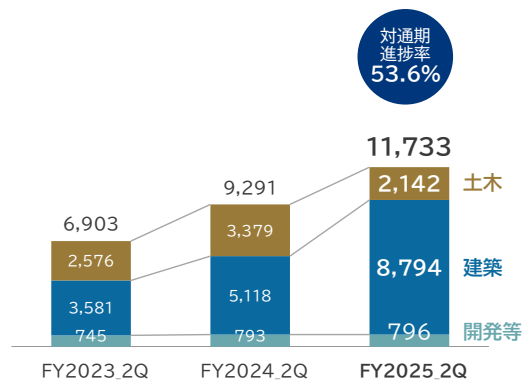
- まず、第2四半期の概要を説明します。
- 受注高は、建築事業において、国内大型工事を受注したことから増加しました。
- 売上高は、建築事業において、前年度に複数の国内大型工事の施工が最盛期にあった反動により、減収となりました。
- 売上総利益は、土木事業および建築事業における利益率の大幅な改善により、増益となりました。
- 営業利益以下においては、販管費の増加・営業外収益の減少・特別利益の減少があったものの、売上総利益の増益により、各段階利益は、第1四半期に続き、第2四半期として過去最高益となっております。
- 通期予想については、東洋建設の連結子会社化による影響、および土木事業・建築事業の利益率の好転・政策保有株式の縮減状況を織り込み、受注高以下の全ての各項目を上方修正し、当期純利益は過去最高益となる見通しです。

3-1. 受注高

第2四半期実績は、単体国内建築における大型工事の受注により、対前期で**26.3%**増加
 通期予想はM&Aに伴う連結子会社の増加を織り込み、**1,300億円**上方修正(対当初予想)

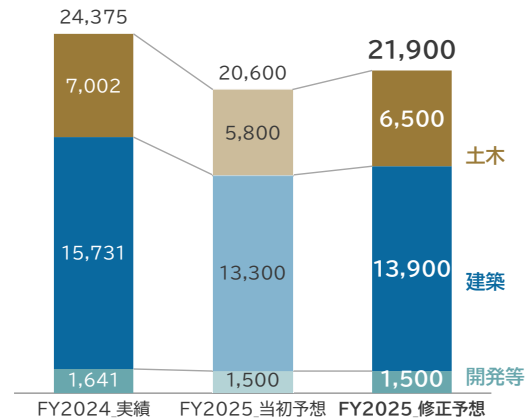
第2四半期実績

(億円)



通期予想

(億円)



© 大成建設株式会社 / Taisei Corporation. All rights reserved.

4

- 受注高についてです。
- 第2四半期実績は、対前期+2,441億円増加の1兆1,733億円となりました。

【土木】

- ✓ 単体は、前期において国内大型工事の受注があった反動から▲1,193億円減少しました。
- ✓ 子会社等は、概ね前期並みとなり、連結全体では▲1,237億円減少しました。

【建築】

- ✓ 単体は、国内において大型工事の受注があったことから、+3,609億円増加しました。
- ✓ 子会社等は、概ね前期並みとなり、連結全体では+3,675億円増加しました。

【開発等】

- ✓ 単体は物件売却により、+26億円増加しました。
- ✓ 子会社等は、大成有楽不動産の分譲マンション販売戸数の減少により▲22億円の減少となり、連結全体では概ね前期並みとなりました。

- 通期予想についてです。
- 東洋建設の連結子会社化による影響、および大成設備の増加を反映し+1,300億円上方修正した、2兆1,900億円となる見込みです。
- 対前期では、単体土木事業・建築事業が前期の大型工事受注の反動から減少となる見込みです。

(参考)主な受注案件

土 建	受注期	区分	工事名称	施設用途	発注者	産業分類
土 木	1Q	〔官公庁〕	甲山浄水場更新事業 新浄水場建設事業	上下水道	姫路市	市区町村
	1Q	〔民間〕	電炉2工区EAF電気室基礎建設工事 他	土地造成 (工場基礎)	JFEスチール(株)	鉄鋼業
	2Q	〔民間〕	扇島先導エリア港湾公共化(臨港道路・ふ頭用地)解体工事	その他	JFEスチール(株)	鉄鋼業
	2Q	〔民間〕	[S-ab]エネルギー知利別貯水池取水設備設置工事	治山・治水	日本製鉄(株)	鉄鋼業
建 築	1Q	〔民間〕	(仮称)品川駅西口地区A地区新築計画	事務所	京浜急行電鉄(株)	運輸業
	2Q	〔民間〕	大通西4南地区第一種市街地再開発事業の内、 施設建築物等新築工事	店舗	大通西4南地区 市街地再開発組合	サービス業
	2Q	〔民間〕	白金一丁目西部中地区第一種市街地再開発事業 施設建築物等新築工事	住宅	白金一丁目西部中地区 市街地再開発組合	サービス業
	1Q	〔官公庁〕	千葉中央コミュニティセンター減築大規模改修工事	事務所 (事務所・水泳場・ その他(社会教育施設))	千葉市	市区町村
	1Q	〔官公庁〕	理化学研究所和光地区拡張用地(第1期)新研究棟建築工事	教育・研究・ 文化施設	(国研開)理化学研究所	独立行政法人

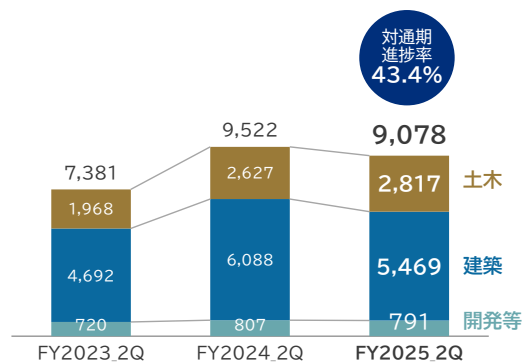
- 単体土木事業、建築事業の主な受注工事は記載のとおりです。

3-2. 売上高

第2四半期実績は、単体国内建築における大型工事の施工量が、前期と比較して減少し▲4.7%減収
 通期予想はM&Aに伴う連結子会社の増加を織り込み、**1,300億円**上方修正(対当初予想)

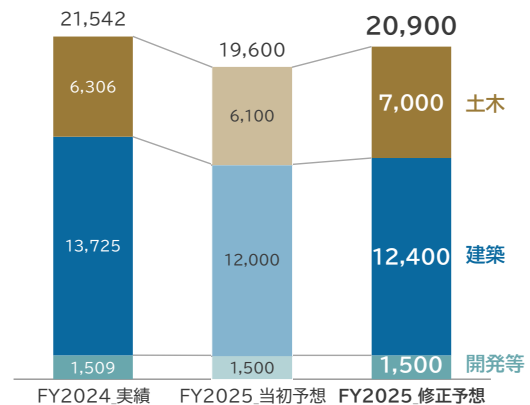
第2四半期実績

(億円)



通期予想

(億円)



© 大成建設株式会社 / Taisei Corporation. All rights reserved.

6

- 売上高についてです。
- 第2四半期実績は、対前期▲444億円減収の9,078億円となりました。

【土木】

- ✓ 単体は、手持工事の増加、および地方大型工事の工程進捗により、+144億円の増収。
- ✓ 子会社等は、成和リニューアルワークス、およびピーエス・コンストラクションの手持工事の進捗により、+45億円の増収。
- ✓ 連結全体では+189億円の増収となりました。

【建築】

- ✓ 単体は、前年度に複数の国内大型工事の施工が最盛期にあった反動により、▲778億円の減収。
- ✓ 子会社等は、ピーエス・コンストラクション、および大成設備の手持工事の増加により、+159億円の増収。
- ✓ 連結全体では▲619億円の減収となりました。

【開発等】

- ✓ 単体は概ね前期並み。
- ✓ 子会社等は、大成有楽不動産においてマンション販売戸数の減少から▲15億円の減収。
- ✓ 連結全体では▲15億円の減収となりました。

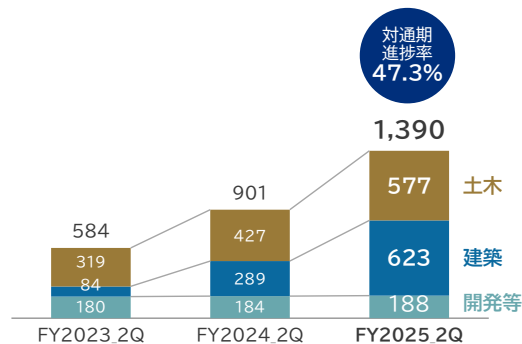
- 通期予想についてです。
- 東洋建設の連結子会社化による影響、および単体土木事業の増収影響を反映し、+1,300億円上方修正し、2兆900億円となる見込みです。
- 対前期では、単体建築事業の前期からの反動により、▲642億円の減収となる見込みです。

3-3. 売上総利益

第2四半期実績は、土木事業および建築事業において利益率が大幅に好転し、対前期で**54.3%**増加
 通期予想は土木事業・建築事業の増収増益により**670億円**上方修正(対当初予想)

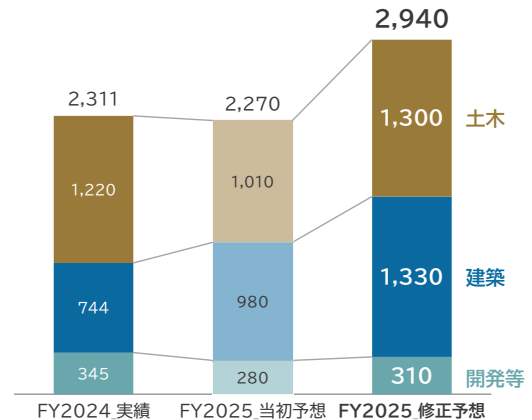
第2四半期実績

(億円)



通期予想

(億円)



© 大成建設株式会社 / Taisei Corporation. All rights reserved.

7

- 売上総利益についてです。
- 第2四半期は、対前期+489億円増益の1,390億円となりました。

【土木】

- ✓ 単体は、増収および利益率の好転により、対前期で+111億円の増益。
- ✓ 子会社等は、ピーエス・コンストラクションの追加工事獲得による収支好転、および成和リニューアルワークスの増収および利益率の好転により、+38億円の増益。
- ✓ 連結全体では+149億円の増益となりました。

【建築】

- ✓ 単体は、減収となったものの、利益率の好転により対前期+288億円の増益。
- ✓ 子会社等は大成設備、および大成建設ハウジングでの増収影響により+46億円の増益。
- ✓ 連結全体では+334億円の増益となりました。

【開発等】

- ✓ 単体は、販売用不動産の売却件数の増加により+5億円の増益。
- ✓ 子会社等は、概ね前期並み。
- ✓ 連結全体では、+4億円の増益となりました。

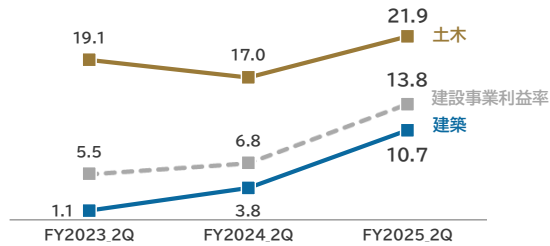
- 通期予想についてです。
- 単体における利益率の好転と、東洋建設の連結子会社化による影響を土木事業・建築事業それぞれに織り込み、+670億円上方修正し、2,940億円となる見込みです。
- 対前期では、単体建築事業での増益を主因として、+628億円の増益の見込みです。

3-4. 単体・完成工事利益率

第2四半期実績は、**土木21.9%**(対前期+4.9pt)・**建築10.7%**(対前期+6.9pt)と対前期で好転
 通期予想は、**土木21.0%**(対当初予想+2.8pt)、**建築10.0%**(対当初予想+2.7pt)と当初予想より好転

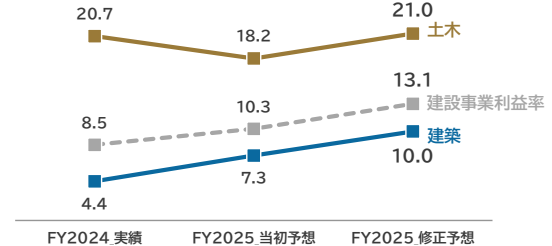
第2四半期実績

(%)



通期予想

(%)



工事損失引当金の当期増減内訳

(億円)

	2025年 3月末	第2四半期増減				2025年 9月末
			繰入	取崩		
土木	99	2	11	▲9		101
建築	924	▲114	17	▲131		810
合計	1,023	▲112	28	▲140		911

© 大成建設株式会社 / Taisei Corporation. All rights reserved.

8

- 単体の完成工事利益率です。
- 第2四半期は、建設事業全体では、対前期+7ポイント上昇の13.8%となりました。

【土木】

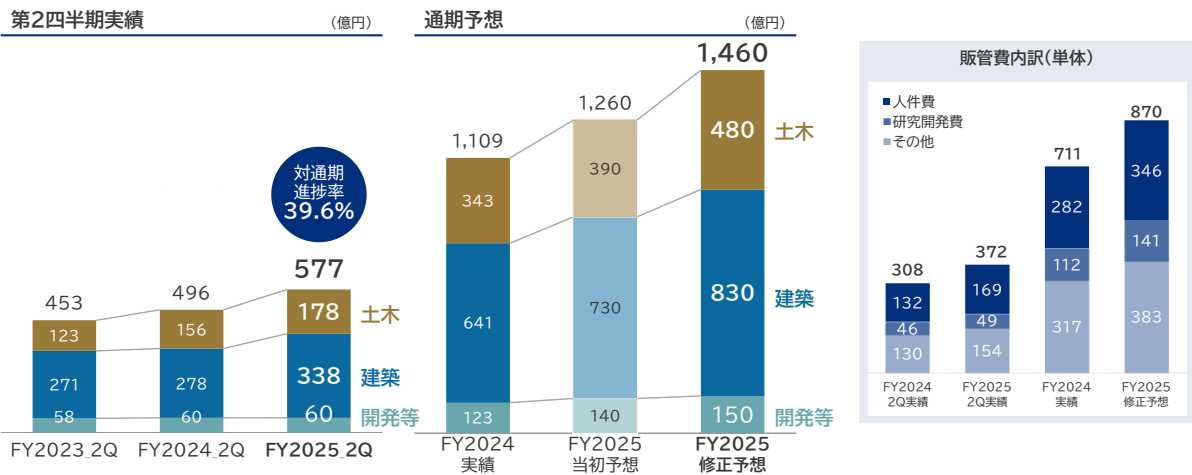
- ✓ 当期に竣工を迎える大型工事を中心として、追加工事の獲得や原価低減が進んだことにより収支が好転し、対前期で+4.9ポイント上昇の21.9%となりました。

【建築】

- ✓ 受注時採算の改善に加え、当期に竣工を迎える大型工事における追加獲得等による収支改善があり、対前期+6.9ポイント上昇の10.7%となりました。
- 通期予想は、当初予想に対して、土木は+2.8ポイント好転の21.0%、建築は+2.7ポイント好転の10.0%、建設事業全体は+2.8%好転の13.1%となる見込みです。
- なお、工事損失引当金の残高については、工事の進捗に伴い順調に減少しています。増減の内訳については、記載の通りです。

3-5. 販売費および一般管理費(販管費)

第2四半期実績は人的資本投資が進んだことから対前期で**16.4%**増加
 通期予想はM&Aに伴う連結子会社の増加を織込み、**200億円**の支出増（対当初予想）



© 大成建設株式会社 / Taisei Corporation. All rights reserved.

9

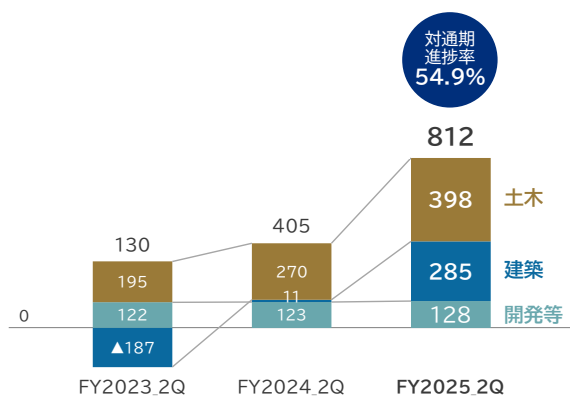
- 販管費についてです。
- 第2四半期は、単体は、人事施策の実施に伴う人件費の増加、および受注関連費用の増加により、対前期で+64億円の支出増となりました。
- 子会社等は、ピーエス・コンストラクション等で+17億円の支出増となりました。
- 連結全体では+81億円の支出増となりました。
- 通期予想は、単体は人件費増加等で+40億円、子会社等はのれん償却費を含む東洋建設の連結子会社化の影響等で+160億円の支出増を織込み、連結全体では当初予想より+200億円増加の1,460億円となる見込みです。

3-6. 営業利益

第2四半期実績は、販管費の増加を売上総利益の増益が上回り、営業利益は対前期で**100.5%**増加
 通期予想は、売上総利益の上方修正が、販管費の支出増を吸収し**470億円**上方修正(対当初予想)

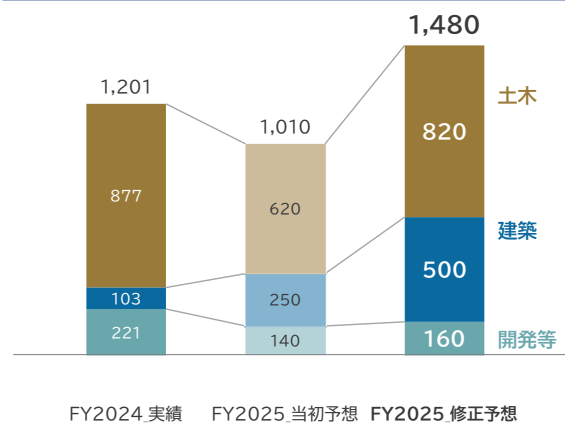
第2四半期実績

(億円)



通期予想

(億円)



© 大成建設株式会社 / Taisei Corporation. All rights reserved.

10

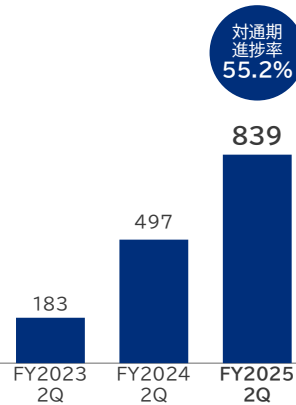
- 営業利益についてです。
- 第2四半期は、販管費は支出増となりましたが、売上総利益の増益に吸収され、対前期+407億円増益の812億円となりました。
- 通期予想は、売上総利益の+670億円の上方修正により、販管費の+200億円の支出増を吸収し、+470億円上方修正の1,480億円となる見込みです。
- 対前期では、+279億円の増益となる見込みです。

3-7. 経常利益

第2四半期実績は、営業利益の増加に伴い、対前期で**68.7%**増加
 通期予想は、営業利益の上方修正に伴い**470億円**上方修正(対当初予想)

第2四半期実績

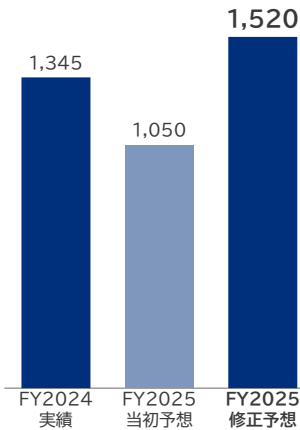
(億円)



対前期増減要因	
内訳	対前期
営業利益	+407
営業外損益	▲66
持分法利益	▲67
金融収支	▲6
為替差損益	5
その他	2

通期予想

(億円)



対前期増減要因	
内訳	対前期
営業利益	+278
営業外損益	▲103
持分法利益	▲60
金融収支	▲27
外国税	▲13
為替差損益	▲5
その他	2

© 大成建設株式会社 / Taisei Corporation. All rights reserved.

11

- 経常利益についてです。
- 第2四半期は、営業外損益において、前期にM&Aに伴う負ののれんの一括償却を計上した反動により持分法利益が減少し▲67億円悪化したものの、営業利益の増益により、対前期+341億円増益の839億円となりました。
- 通期予想は、営業利益の上方修正に伴い、+470億円上方修正の1,520億円となる見込みです。
- 対前期では、営業利益の好転を主因に、+174億円の増益となる見込みです

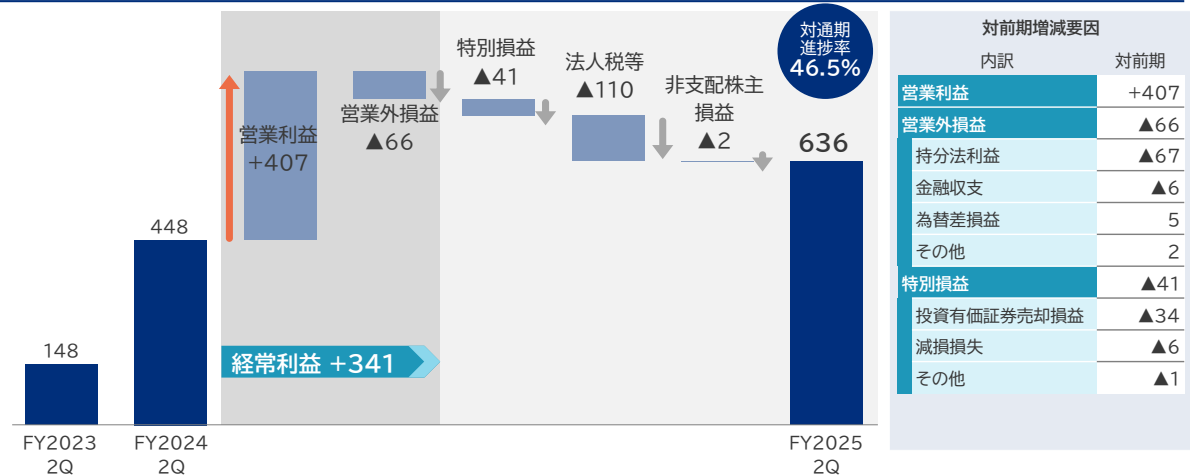
3-8. 親会社株主に帰属する中間純利益【第2四半期】

第2四半期実績は、営業利益の増加に伴い、対前期で**41.9%**増加

- 単体土木事業・建築事業の採算性改善による営業利益の好転が貢献

第2四半期実績(対前期)

(億円)



© 大成建設株式会社 / Taisei Corporation. All rights reserved.

12

- 親会社株主に帰属する中間純利益についてです。
- 第2四半期は、営業外損益および特別損益が減益となったものの、経常利益の増益により、対前期+187億円増益の636億円となりました。
- 特別損益の▲41億円の減少は、政策保有株式縮減に伴う投資有価証券売却益の減少、および減損損失の計上によるものです。

3-9. 親会社株主に帰属する当期純利益【通期予想】

通期予想は、**570億円**上方修正(対当初予想)

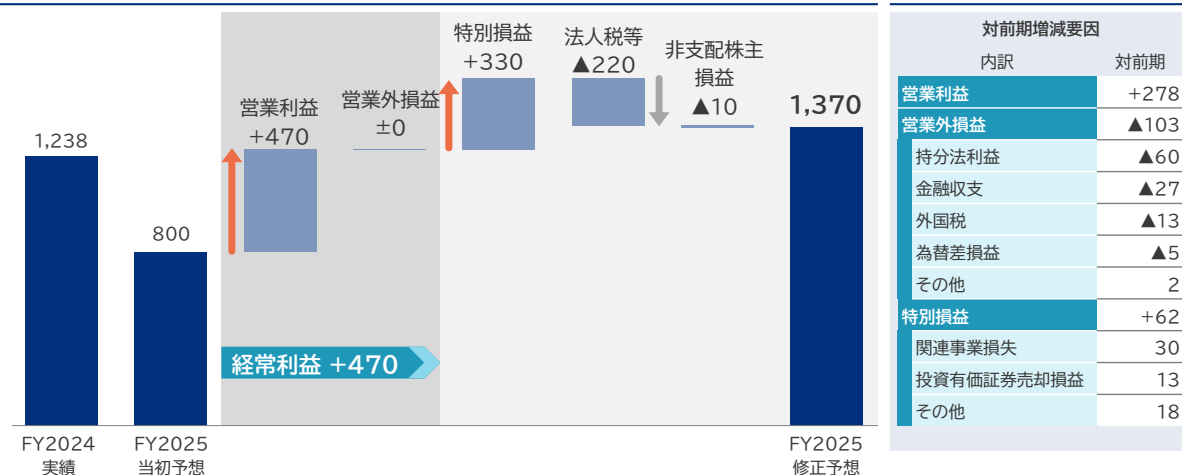
- 政策保有株式の縮減の進捗による投資有価証券売却益の増加で特別損益が好転
- 対前期では、営業利益は+278億円となったが、前期に負ののれんの一括償却があった反動により全体では+131億円

通期予想(対当初予想)

(億円)

通期予想(対前期実績)

(億円)



© 大成建設株式会社 / Taisei Corporation. All rights reserved.

13

- 当期純利益の通期予想です。
- 当期純利益は、経常利益の+470億円の上方修正、政策保有株式縮減の進捗に伴う投資有価証券売却益の増加による特別損益の好転+330億円を織り込み、全体で+570億円上方修正し、1,370億円となる見込みです。
- 対前期では、売上総利益の好転を主因として、+131億円の増益となる見込みです。

3-10. グループ会社業績(連単差)

セグメント別内訳

(億円)

	受注				売上				売上総利益			
	第2四半期実績	対前期	対通期進捗率	通期予想	第2四半期実績	対前期	対通期進捗率	通期予想	第2四半期実績	対前期	対通期進捗率	通期予想
当社	8,902	2,443	58.6%	15,200	6,507	▲634	45.5%	14,300	943	405	48.1%	1,960
土木系子会社	1,215	▲44	40.5%	3,000	1,050	45	35.0%	3,000	189	38	41.1%	460
建築系子会社	977	66	39.1%	2,500	888	159	37.0%	2,400	134	46	40.6%	330
開発系子会社 (その他含む)	637	▲23	53.1%	1,200	632	▲15	52.7%	1,200	122	▲1	64.2%	190
グループ計	11,733	2,441	53.6%	21,900	9,078	▲444	43.4%	20,900	1,390	489	47.3%	2,940

主なグループ企業

土木	建築	開発・その他
<ul style="list-style-type: none"> ■ 大成ロテック ■ 成和リニューアルワークス ■ ビーエス・コンストラクション ■ 東洋建設 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 大成ユーレック ■ 大成建設ハウジング ■ ビーエス・コンストラクション ■ 東洋建設 ■ 大成設備 ■ 佐藤秀 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 大成有楽不動産 ■ TAISEI USA

© 大成建設株式会社 / Taisei Corporation. All rights reserved.

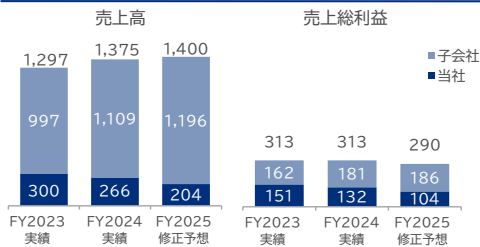
14

- グループ会社のセグメント別業績は記載の通りです。
- 第2四半期は、土木系・建築系子会社が対前期で増収増益となりました。
- 通期予想の売上総利益に対する進捗率は、いずれも順調に進捗しています。
- なお、通期予想より、東洋建設を土木・建築それぞれのセグメントに織り込んでいます。

3-11. 開発事業の概況

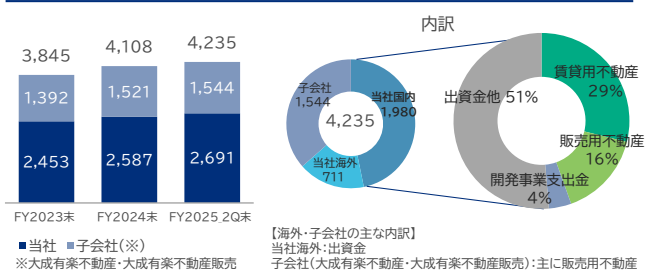
開発事業業績(連結)

(億円)

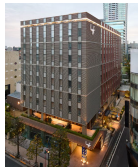


グループ開発事業投資残高

(億円)



主な開発事業投資



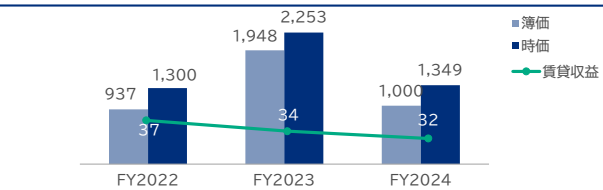
【新規物件】(ホテル)
lyf渋谷東京
東京都渋谷区



【継続】(オフィス・ホテル・学校)
(仮称)本町4丁目プロジェクト
大阪市中央区

賃貸等不動産の期末残高(連結)

(億円)



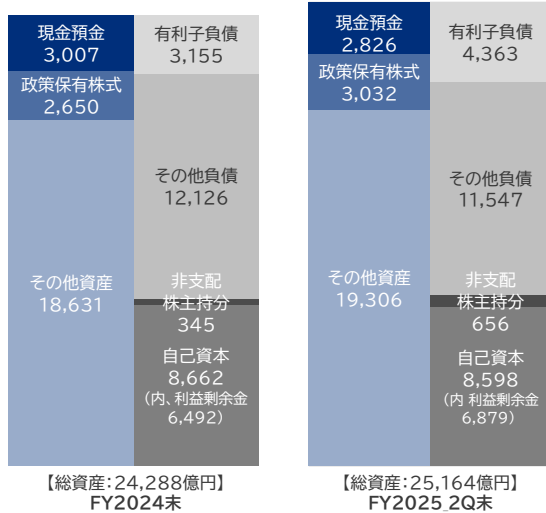
注) 開発事業本部以外の所管を含むためグループ開発事業投資残高の賃貸用不動産とは異なる

- 開発事業の概況についてです。
- グループ開発事業投資残高は、2025年9月末残高で、4,235億円となっております。
- 内訳は、単体2,691億円・子会社1,544億円となっております。
- 単体の国内外内訳は、国内74%・海外26%です。
- 単体国内の内訳は記載の通りです。

3-12. バランスシート・キャッシュフローほか

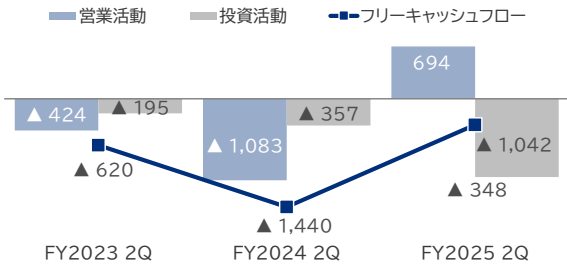
バランスシート(BS)

(億円)



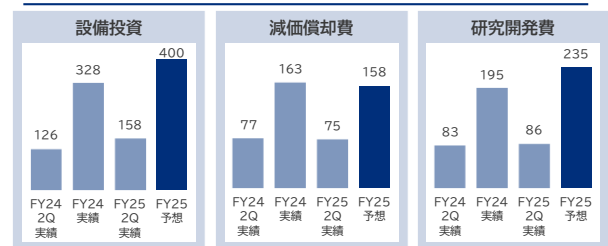
キャッシュ・フロー(CF)

(億円)



【参考】設備投資・減価償却費・研究開発費

(億円)



© 大成建設株式会社 / Taisei Corporation. All rights reserved.

16

- 第2四半期末の連結総資産は前期から+876億円増加し、2兆5,164億円となりました。
- 有利子負債は前期末から+1,208億円増加し4,363億円となり、現金預金は▲181億円減少し2,826億円となったことから、1,537億円のネットデットとなっています。
- 自己資本は、配当および自己株式の取得等により、▲64億円減少の8,598億円となり、自己資本比率は34.2%となりました。
- 連結キャッシュ・フローについて、営業活動によるキャッシュフローは対前期+1,777億円好転し、694億円の収入超過となりました。
- 投資活動を加えたフリーキャッシュ・フローは、対前期では+1,092億円好転しましたが、▲348億円の支出超過となりました。
- 通期の設備投資計画は、国内開発事業(大阪市中央区本町4丁目プロジェクトなど)への投資により、対前期+72億円増加の400億円となる見込みです。
- 研究開発費は、DXや環境関連等の注力分野への取り組みを継続しており、対前期+40億円増加の235億円となる見込みです。

財務政策

- 4-1.財務数値目標
- 4-2.PBR向上に向けた取り組み内容
- 4-3.政策保有株式の縮減
- 4-4.BSマネジメント
- 4-5.資金配分方針
- 4-6.株主還元の取り組み
- 4-7.株主還元の方針(ロードマップ)
- 4-8. IR・SR体制の整備

© 大成建設株式会社 / Taisei Corporation. All rights reserved.

- 続いて、財務政策についてご説明します。

4-1. 財務数値目標

		2024年度実績	2025年度目標	【中期経営計画】 2026年度 ※1	【TAISEI VISION 2030】 2030年度
収益性	当期純利益	1,238億円	1,370億円	800億円	1,500億円
	ROE	13.8%	15.8%	8.5%※2	10%程度
BS マネジメント	政策保有株	対純資産比 29.4%	2026年度末までに 対純資産比 20%未満		
	自己資本比率	35.7%	34.1%	40%程度	40%程度
	ネットD/Eレシオ	0.02倍	0.4倍	0.4倍以下	0.4倍以下
株主還元	配当性向	30.8%	30.2%	下限付き配当性向30%	検討課題
	総還元性向	成長投資・株主配当後、余剰資金が生じた場合に実施（3か年74.0%）			
成長投資	成長投資	<div> <div></div> <div>(3か年) 1,700億円</div> <div></div> </div>			
	事業投資	<div> <div></div> <div>(3か年) 1,200億円</div> <div></div> </div> <div>成長投資 3,500億円</div>			
	基盤維持投資	<div> <div></div> <div>(3か年) 600億円</div> <div></div> </div>			

※1 2026年度は中期経営計画策定時(2024年5月)

※2 政策保有株式売却が目標通りに進捗した場合は10%程度

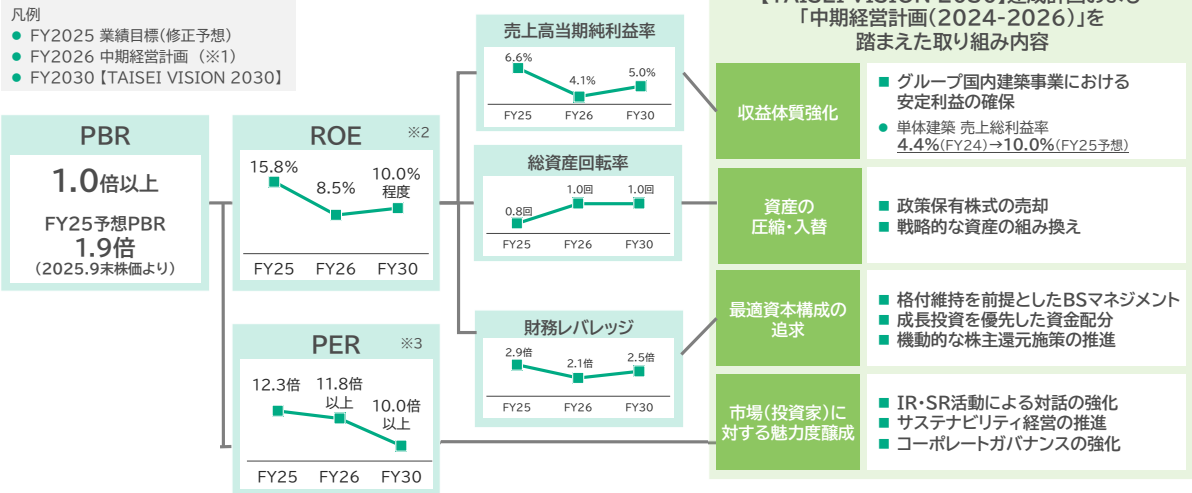
© 大成建設株式会社 / Taisei Corporation. All rights reserved.

18

- 財務政策におけるKPIに対する現況は、記載の通りです。
- 2025年度のROEは、収益性の更なる改善により、当初予想の9.5%から+6.3ポイント改善して15.8%となる見込みであり、中期経営計画の最終年度となる2026年度および【TAISEI VISION2030】の達成に向けて更なる向上を目指します。
- 自己資本比率は34.1%、ネットD/Eレシオは0.4倍となる見込みであり、財務規律を維持しています。

4-2. PBR向上に向けた取り組み内容

- 当社グループの企業価値向上に資する基盤整備に取り組み、ROE、PER向上に向けた施策の推進によりPBRを改善する



※1 2026年度は中期経営計画策定時(2024年5月)

※2 2026年度:政策保有株式の売却が目標通りに進捗した場合は10%程度

※3 2026年度・2030年度のPERは、PBRを1倍と設定したうえで、ROEからの逆算により算出

© 大成建設株式会社 / Taisei Corporation. All rights reserved.

19

- 2024年に「資本コストや株価を意識した経営の実現」に向けた対応を公表しましたが、今後取り組むべき具体策を「PBRロジックツリー」として新たに整理しました。
- 2025年度の予想PBRは1.9倍であり、恒常的なPBRの向上に向け、「収益体質の強化」「資産の圧縮・入替」「最適資本構成の追求」そして、「市場に対する魅力度醸成」という4つの具体策への取り組みを進めてまいります。
- 収益体質強化については、右上に記載のとおり、単体建築事業の売上総利益率は順調に上昇しています。

4-3. 政策保有株式の縮減

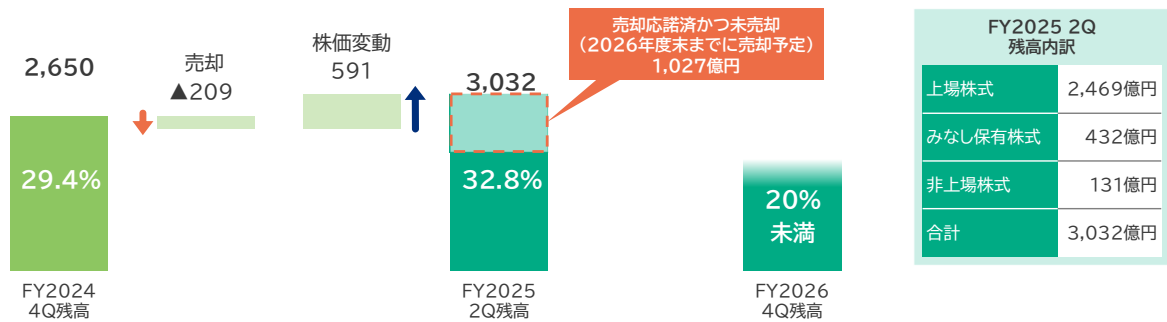
PBR向上に向けた取り組み【資産の圧縮・入替】

- 9月末時点の政策保有株式の保有残高は3,032億円となり、連結純資産に占める割合は32.8%
- 今後、株価や連結純資産額が変動した場合においても、縮減目標を確実に達成すべく、適宜追加売却等を検討・実施する

縮減目標(2023年12月公表)
2026年度末までに連結純資産額の20%未満を目指す

連結純資産に対する保有残高の推移

(億円)



© 大成建設株式会社 / Taisei Corporation. All rights reserved.

20

- 政策保有株式の縮減状況については、記載の通りです。
- 2025年9月末時点の政策保有株式の保有残高は、3,032億円となり、連結純資産に占める割合は32.8%となっています。株価上昇の影響により残高は増加しておりますが、売却は順調に進捗しております。
- 2027年3月末までに連結純資産の20%未満を目指すとした縮減計画の達成に向け、引き続き取り組みを進めてまいります。

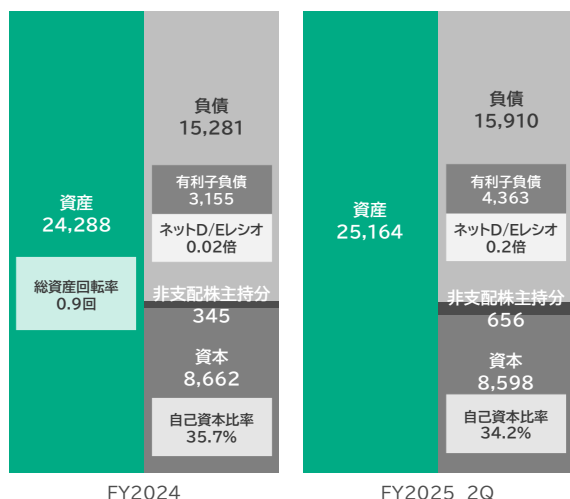
4-4. BSマネジメント

PBR向上に向けた取り組み【最適資本構成の追求】

■ 格付け維持を前提としたBSマネジメント

資本構成(実績)

(億円)



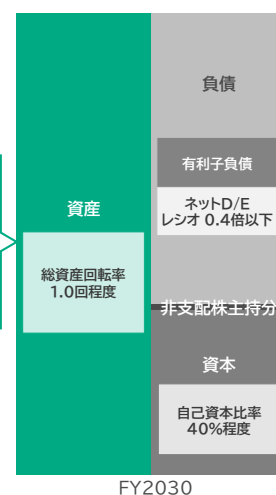
最適資本構成イメージ (【TAISEI VISION 2030】公表値) (億円)

資産の入替・圧縮

- 政策保有株式売却
(2026年度末迄に
対連結純資産比20%未満)
- 統合リスク管理に基づく
総量規制と戦略的な資産の
組み換え

資金調達

- 財務安全性の
確保と資本効率
向上の両面を
意識

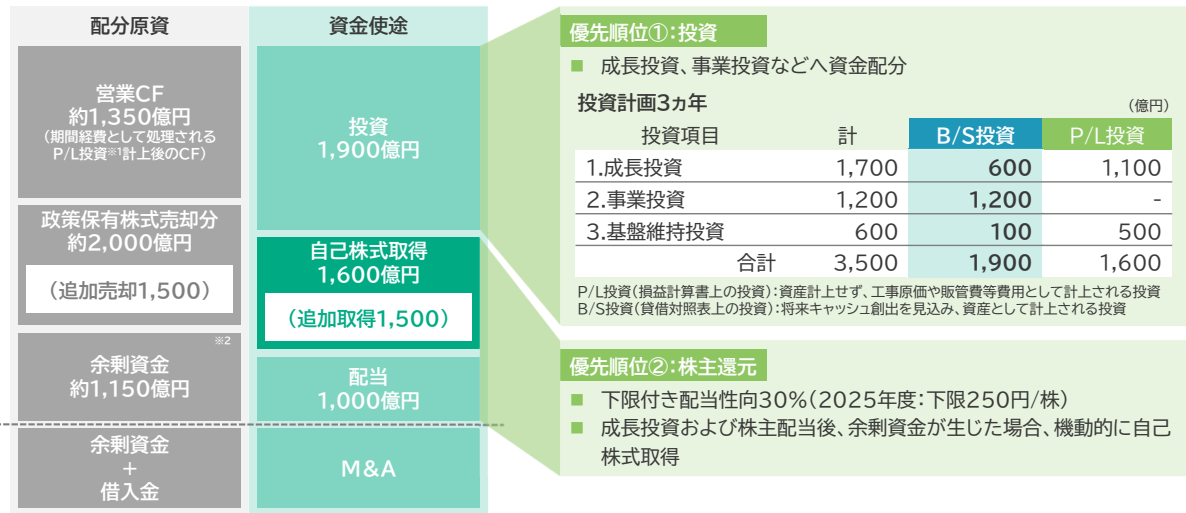


- 続いて、BSマネジメントについてです。
- 当社は、ROE構成要素の一つである財務レバレッジの適正管理を通じて、資本効率と財務健全性を両立させる最適な資本構成を追求しています。
- 2025年9月末の自己資本比率34.2%、ネットD/Eレシオ0.2倍は健全な水準と認識しています。
- なお、資金配分においては、まず成長投資・事業投資を最優先とし、余剰資金については株主還元へ充当する方針です。
- 2030年度に向けては、格付維持を前提とし、自己資本比率40%程度・ネットD/Eレシオ0.4倍以下を目安とする資本構成を継続し、成長投資や株主還元を着実に進める基盤としてまいります。

4-5. 資金配分方針

PBR向上に向けた取り組み【最適資本構成の追求】

- 成長投資を優先とする2024年～2026年の3年間の配分方針を策定



※1 1,600億円
 ※2 月商1ヶ月相当を超える現預金

© 大成建設株式会社 / Taisei Corporation. All rights reserved.

22

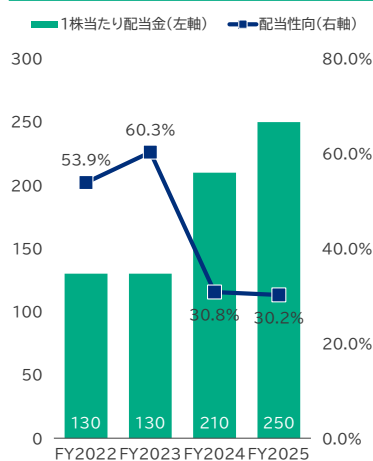
- 2024年～2026年の中期経営計画期間の資金配分方針です。
- 計画策定時を上回る業績進捗のため、営業キャッシュフローが増加しており、増加分は、配当の増額へと振り向けています。
- 政策保有株式の売却資金を原資とする自己株式取得については、想定通りに進捗しました。

4-6. 株主還元の取り組み

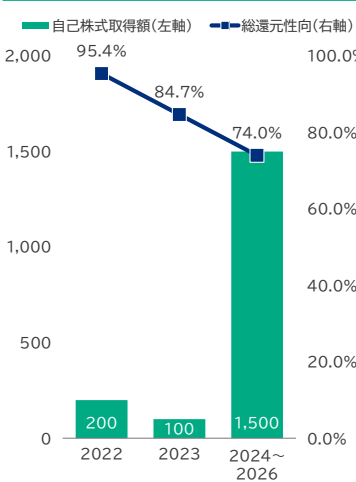
PBR向上に向けた取り組み【最適資本構成の追求】

- 2025年度より、公表目標に対し配当性向30%を下限とする「下限付き配当性向」を導入
- 当期純利益予想800億円から1,370億円への上方修正に伴い、年間配当を250円に増配(中間125円・期末125円)

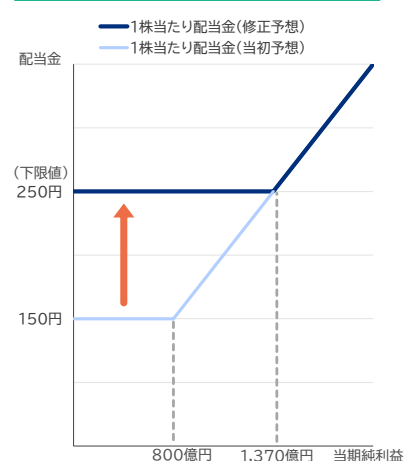
配当/株・配当性向(通期) (円)



自己株式取得(通期) (億円)



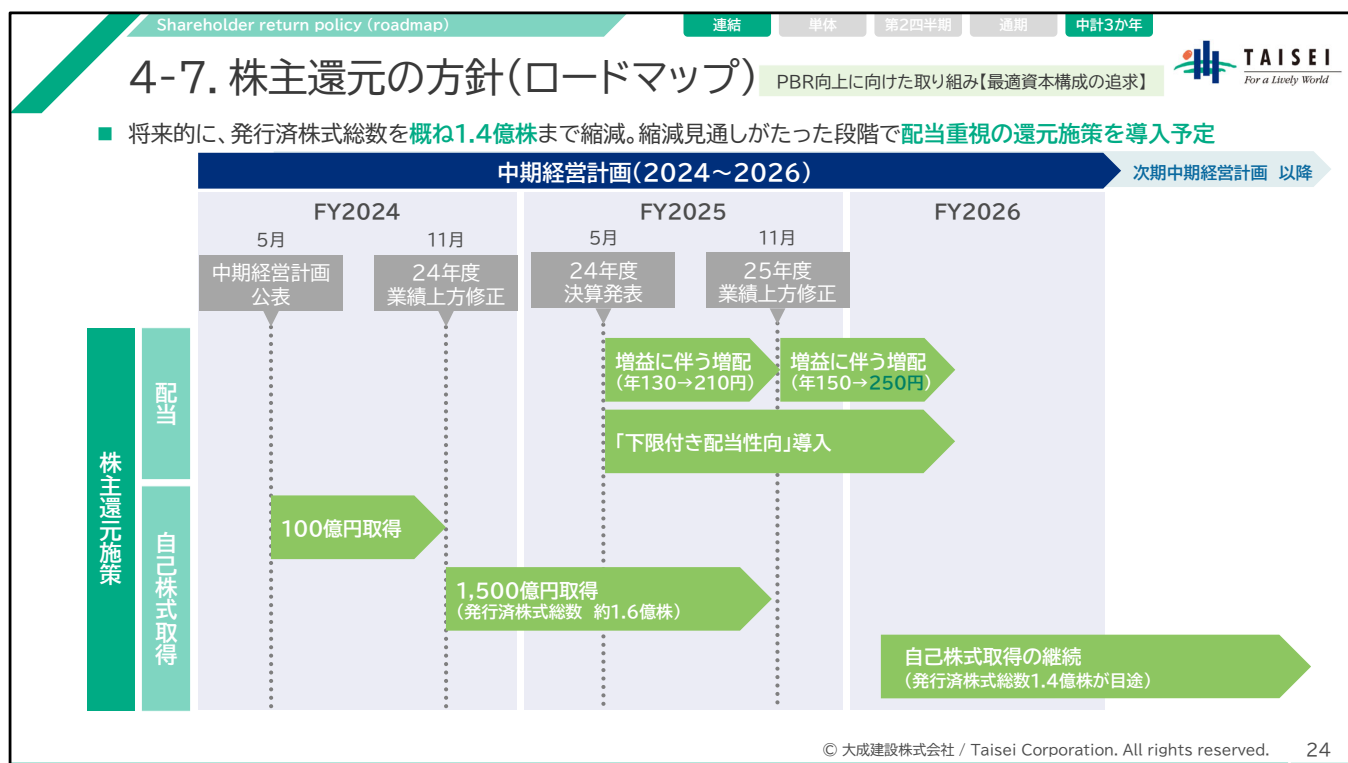
下限付き配当性向(イメージ)



© 大成建設株式会社 / Taisei Corporation. All rights reserved.

23

- 株主還元についてです。
- 当社は、業績目標実現と配当政策の遵守に対する強い意思表示として、2025年度より新しい配当政策である「下限付き配当性向30%」を導入しました。
- 今回通期公表予想を1,370億円へ上方修正することに伴い、年間配当を150円から250円に増額します。
- 下限を150円から250円へ引き上げ、連結当期純利益の実績が予想を上回る場合は、配当を上方修正します。
- また、下限を250円へ引き上げることから、中間配当についても75円から125円へと見直しました。
- なお、自己株式の取得については、1,500億円の取得が11月7日に完了し、消却に伴い発行済株式総数は1.6億株となりますが、今後も財務政策に基づき、継続的・機動的な取得を実施してまいります。



- 株主還元のロードマップです。
- 将来的には、発行済株式数を1.4億株まで縮減する計画のため、今後も自己株式の取得を継続する考えです。
- 1.4億株への縮減の見通しが立った段階で、配当を重視した還元施策を導入したいと考えています。

4-8. IR・SR体制の整備

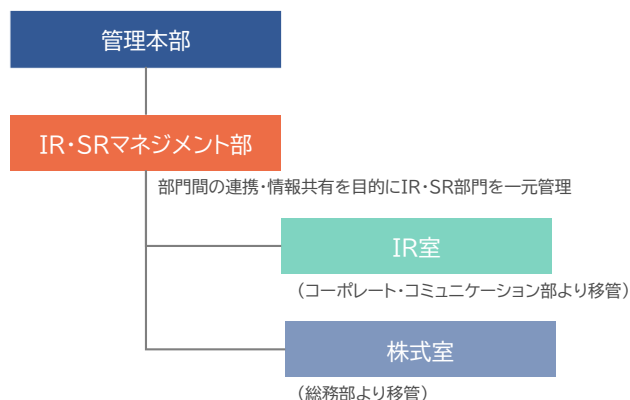
PBR向上に向けた取り組み【市場に対する魅力度醸成】

- IR・SR活動の強化のため、専門部署としてIR・SRマネジメント部を新設(2025年9月)
- IR・SR部門の密接な連携により、株主・投資家との対話・情報開示体制や対話内容を経営層にフィードバックする体制の更なる充実を図り、株主・投資家との双方向のコミュニケーションを通じ、信頼関係の構築と当社の理解促進に努める

従来



2025年9月より



- PBR向上に向けては、「市場に対する魅力度の醸成」も重要な項目であると位置付け、その取り組みの一つとして、2025年9月より、IR・SR活動をより密接に連携させることを目的としてIR・SRマネジメント部を新設しました。
- 株主・投資家の皆様とのコミュニケーションの促進はもとより、社内へのフィードバック体制の充実を図ってまいります。



【TAISEI VISION 2030】達成計画 ・中期経営計画(2024-2026)

■ 5-1. 【TAISEI VISION 2030】達成計画の進捗

■ 5-2. 投資計画の進捗

© 大成建設株式会社 / Taisei Corporation. All rights reserved.

- 最後に、中期経営計画の状況についてです。

